本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について	事業内容	高知国際高等学校（IB教育プログラム）
--------	------------------------------	------	---------------------

令和3年度 到達目標	①質の高い授業の研究(指導と評価の一体化、探究型学習の推進、ICTの活用)	②英語運用能力の向上(英語に接する時間の確保、英語に関する活動行事への参加、外部試験)
	③国際バカロレア教育の推進(IB 教員の養成、環境整備、広報)	④円滑な統合と中高連携

P 令和3年度の当初計画

- 取組① 質の高い授業の研究**
- A 指導と評価の一体化
- すべての教科で観点別評価が実践できている。
 - 来年度新学習指導要領の開始に向けて準備が完了している。
- B 探究型学習の推進
- すべての授業で、「観点・ルーブリックが示されている」「学んだ知識を考えまとめ発表する機会がある」「振り返る場面が設定されている」が実践されている。
 - 机上の学習に加えて、現実の世界での研究が組み合わされている。
- C ICT の活用
- 授業や家庭学習において効果的に ICT が活用されている。

取組② 英語運用能力の向上

A 英語に接する時間（1日4時間）の啓発

B 英語に関する活動・行事に参加者のべ100名以上

C 外部試験（GTEC, 英検, TOEFL, IELTS）の目標

学科	学年	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2
普通科	1	50%		
普通科	2	100%	20%	
普通科	3		50%	
グローバル科	1	100%	50%	
グローバル科	2		100%	50%
グローバル科	3			100%

- 取組③ 国際バカロレア教育の推進（評価訪問令和6年予定）**
- A IB 教員の養成
- IB 授業について学ぶ機会が確保されている。
 - 校内で IB についての理解が進んでいる。
- B 環境整備
- 11月開始の DP について準備が完了している。
 - DP コース生全員がフルディプロマを取得する力を身に付ける。
- C 広報
- 保護者や県内外に本校の取組を周知している。

- 取組④ 円滑な統合及び中高連携**
- A 高知南と高知西の統合準備ができている。
- B 高知南中学校及び高知国際中学校と連携した活動ができている。

D 令和3年度の取組状況

- 取組① 質の高い授業の研究**
- A ア 普通科・探究コース・DP コースの年間指導計画（アウトライン）及び単元指導計画（ユニットプランナー）の改善と更新
- イ 各教科会、MYP/DP ミーティング（毎月1回）、教員研修時間（PD）の設定
- ウ 中高授業研究大会（11/17）…県内中学校・高校及び教育機関に公開
- エ 大会に向けた授業研究Ⅰ～Ⅲ（7/8,8/23,9/16）での相互公開授業など
- オ 講師招聘（国語科、研究大会にて、IB 授業に関して、など）
- B ア PP 発表会 9/22、探究活動成果発表会（3/12）…Gプロ,SA,CAS
- イ 学際的な取組
- 探究コース高1学際的単元を国語と家庭科、英語と地歴公民で実施
 - 理数課題探究、人文課題探究、Science English, Global Education 等の科目設置
 - 総合的な探究の時間（Gプロ）の学際化
- ウ 「学び方を学ぶ」指導
- ATL スキルカードを全教室に掲示
 - 自主学習への動機付け（授業や課題の工夫）
- エ 「Gプロ」の推進（SGH 事業の精選と継承、高知県内事業所10箇所との連携）
- オ SA 活動、CAS 活動の推進及び指導体制の仕組みづくり
- C ア Gクラスルーム、Gフォーム、ZOOM、クラッシュの活用
- イ 全ホーム教室へのプロジェクター配置、タイマー配置
- ウ 個人 PC の校内持込（BYOD）（グローバル科）
- エ GIGA スクールによる配付 PC の使用方法を検討

取組② 英語運用能力の向上

A ア 英語授業の単位数

	1年次	2年次	3年次	3年間計
普通科	4,2	4,2+選2	4,2+選2	18+選4
探究コース	5,2	4,2+選2	4,2+選2,2	19+選4
DP コース	2,2+選1	4+選2	2,3	13+選3

※DP コースは加えて DP 数学を英語で実施（3年間で7+選3）

イ 家庭学習時間の確保

- 探究型授業と連携した課題
- 英語学習アプリ（リスニング）

ウ 学校の環境づくり（案）

- 校内放送を英語で
- 学校英字新聞の発行
- 掲示の英語化
- English area の設定
- 多読
- webilio などのオンライン英会話
- グローバル科は朝夕のSHを英語で実施
- 留学生の受入
- 共通語彙テスト

B ア English Adventure（高1希望者100人程度を想定1/30）、エンパワメントプログラム（高1,2希望者40名程度12/20-24）

イ 海外語学研修やリサーチ活動（オーストラリア、台湾、韓国、シンガポール、タイ）（各行先10名程度を想定）

C ア GTEC 全員受験（高1県費負担12月、高2 1月）

イ 英検学校受験（年3回）第1回1次合格者数/申込者数は次の通り

準2級 7/8名、2級 3/10名、準1級 0/1名

ウ TOEFL Junior の学校開催検討、TOEFL や IELTS（県外）の受験奨励

- 取組③ 国際バカロレア教育の推進（評価訪問令和6年予定）**
- A ア IB 公式ワークショップ派遣（MYP 3名、DP 6名予定）
- イ 教員メンター制（DP 国語、DP 歴史、DP 地理）
- ウ 先進校連携
- コーディネーターズミーティング（月1回）
 - 授業情報交換（国語）
 - 授業参観（TOK、英語）
- エ DP 数学教員の英語/日本語研修（PD 時間にて）
- B ア リソースの充実（生徒用図書、理科実験用具、芸術 PC）
- イ DP 最終試験の研究、進路指導情報（海外大学進学等）の収集、授業改善
- C ・ホームページ、ツイッターの更新（週1回以上）
- ・オープン Hi スクール 10/6,7
- ・DP だより（月1回）
- ・県教育委員会ホームページ（高校入試）
- ・中学校訪問（管理職）
- ・学校案内パンフレット（生徒協力）

- 取組④ 円滑な統合及び中高連携**
- A ・交流委員会（隔月）
- ・高知西高校との合同教科会
- B 中学生の進路研究活動に高校教員が参加
- 高知国際中（三年生向け総合的な学習の時間・進路講演会、保護者シェア会）
 - 高知南中（三年生向け高知国際高校説明会 6/17、保護者向け説明会 6/25）

C A 成果（☆）、課題（●）、今後の取組（→）

- 取組① 質の高い授業の研究**
- ☆ **観点別評価を成績処理システムに取り入れ、実際の評価を始めることができています。**
- 指導と評価の一体化について、教員が学んでいるもののさらなる改善が必要である。
- ☆ **MYP5（高1グローバル科）の授業実践について中学校教員と連携ができています。**
- ☆ **時間割及び行事予定に PD やミーティングの時間を確保し教員同士の研究が進んでいる。**
- 教科会を時間割に入れることは、カリキュラムの複雑さから難しい。そのため教科で学びあう時間確保ができていない。せっかく教科会ができて事務連絡に終わってしまっている。
- 働き方改革の実践、会議の在り方の見直し、放課後の時間の使い方の検討、整理できる業務の洗い出しを行う。
- 授業でさらに ICT を活用したいと思っている教員は多いが、そのノウハウがない。
- 教員から使ってみたい ICT スキルを募り、実践的な ICT 活用になるよう研修（教員同士の学び合いや外部講師を想定）を行う。
- ICT の活用が有効である教材研究をすすめる。
- GIGA スクールの配付 PC と BYOD による PC について整理が必要である。
- 生徒の使用実態を鑑みながら、会議で検討する。

取組② 英語運用能力の向上

☆ CEFR の状況

学科	学年	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2
普通科	1	11% (21名)	0	0
グローバル科	1	51% (40名)	14% (11名)	0

※4月時点（入学時）英検保有者に基づく

- 1日英語4時間を満たしていない。現在は、授業1時間、家庭学習1時間程度にとどまっていると思われる。（家庭学習時間は学習時間調査による）

→ 考えられるかぎり英語活動を実践していく。教員や生徒からアイデアを募集する。

- 取組③ 国際バカロレア教育の推進（評価訪問令和6年予定）**
- ☆ **DP コース生 21名（内進 19名、外進 2名）が、探究コース生（内進 40名、外進 17名）と同じクラスで学んでいる（授業で分かれる形）。**
- ☆ **県外の IB 先進校とのつながりが構築され始めている。**
- DP 認定時に指摘された改善事項（学校の国際性、教員理解、教員/生徒の英語力、各種方針の更新、図書の充実、教科の準備）に取り組む必要がある。
- ☆ **広報が一定進んでいる。**
- ・ 県教委発行「夢のかけ橋」での連載
 - ・ 高知新聞掲載「高知国際中1期生の学び」（4/4,5）
 - ・ 中学校48校訪問（6/25現在）
- ホームページ、ツイッターの更新頻度が少ない。更新の仕組みづくりが必要である。
- 行事や活動が職員会に提案されるときに、更新担当を明記する。

- 取組④ 円滑な統合及び中高連携**
- ☆ **交流委員会や合同教科会が定期的に実施できている。**
- 教科会については教科によって共通理解を図りにくい内容も存在する。
- 中高授業研究大会に各校の教員が参加し、おのおのが授業改善に取り組む。

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について	事業内容	高知県立高知国際中学校（IB教育プログラム）
--------	------------------------------	------	------------------------

令和3年度 到達目標	①探究学習を通して10の学習者像の実現と高い志を持って学習に取り組める生徒を育成する。 ②教員自らの能力を高めることのできるネットワークをつくり、授業の質の向上を図る。 ③保護者から信頼される学校づくりをすすめる。また、総合的な学習の時間及びSA等を中心として、県内各地域・人物との協力関係を構築する。
------------	---

P	D	C	A
令和3年度の当初計画	令和3年度の取組状況	成果(☆)、課題(●)、今後の取組(→)	

取組① 高い志を持って学習に取り組める生徒の育成

- 生徒一人一人における10の学習者像の実現への支援
- サービスアズアクション(SA)の充実
- 海外大学への進学やフルディプロマ取得を見据えた英語運用能力の強化
- 中高6年間を見据えた進路指導体制の構築

【目標値】満足度「充実した学校生活を送ることができている」70%以上 (R2:59.4%)：学校評価アンケート

英語運用能力:	学年	CEFR A2	CEFR B1
	中学校3年	100%	30%以上

(R2:A2 68%, B1 12%)

取組② 授業の質の向上を目指した授業実践

- MYP 認定校としての教育プログラムの実践
- IB教育の実践経験のある有識者からの学び
- DPとの接続を意識した授業づくり
- 校内研修体制の改善
- 教員のスキルアップ(学級経営、生徒理解など)
- ICT機器の効果的な活用

【目標値】満足度「本校で充実した仕事ができている」50%以上 (R2:34.3%)：学校評価アンケート

取組③ 保護者から信頼される学びのコミュニティづくり

- 生徒の成長が見える学校情報の提供
- 保護者シェア会の計画的な開催
- 県内人材の活用(SA等への協力)
- いじめ、不登校などの予防、早期発見と対応、外部機関との連携強化

【目標値】満足度「充実した学校生活を送ることができている」70%以上 (R2:59.7%)：学校評価アンケート
新たな不登校生徒0,いじめ暴力行為0

取組① 高い志を持って学習に取り組める生徒の育成

- 高知南中学校生徒と本校生徒との交流事業(7/13 観劇実施予定)
- 生徒交流ができるプログラムづくりを進める。(東京学芸大学附属国際中等教育学校との生徒交流「Glocal Café」7/29~7/31 高知県で実施予定)
- 韓国全羅南道の中学校との交流(7月開始予定)
- 総合的な学習の時間・SA発表会・PP構想発表会(3/12 実施予定)
- 高知市子どもファンドの活用(3チーム計18人申込)
- 英語検定受験、GTEC(中2)
- 中3対象進路講演会(6/3 講師:ベネッセ岩城将太氏, 合同会社ナレッジキャラバン代表・前大阪水都国際中学校・高等学校IBコーディネーター熊谷優一氏)

取組② 授業の質の向上を目指した授業実践

- MYP ミーティングの実施(年間13回実施予定,4/2,4/5,4/20,5/20 実施)
- パディ・チームや教科による授業参観・研究
- コーディネーターの指導力向上を図るための国内の公立IB校との情報共有(月1回ミーティング実施、プラットフォーム Google ドライブ、SNS 等での情報共有,市立札幌開成中等教育学校 教頭西村里史氏、広島県立広島観智学園中学校・高等学校 MYPC 古市吉洋氏,東京都立国際高等学校市民講師改発祐一郎氏)
- IB公式ワークショップ(オンライン受講含む)への参加(のべ9人参加予定,1人完了)
- 東京学芸大学附属国際中等教育学校への派遣(2人)
- 東京学芸大学附属国際中等教育学校派遣教員等との情報共有(月2回スカイプミーティング)
- 中高国語科学習会(講師:東京学芸大学附属国際中等教育学校主幹教諭杉本紀子氏)
- 中高英語科学習会(講師:東京学芸大学附属国際中等教育学校 MYP コーディネーター小林真純氏, 合同会社ナレッジキャラバン代表・前大阪水都国際中学校・高等学校IBコーディネーター熊谷優一氏)
- 中高社会科学習会(講師:岡山理科大学教授タツタ・シャミ氏,月1~2回)
- 中高合同授業研究の実施(7/8,8/23,9/16)
- 中高合同授業研究大会実施(11/17 予定)
- 常に授業公開を行う風土づくり(授業改善プラン中部教育事務所による指導助言 9/3 数学,9/6 国語,9/8 英語,9/15 理科,10/27 社会,保健体育課要請訪問 8/2,9/14,11/17 保健体育)
- ネイティブ教員を中心にして教科会を定期的に持ち英語運用能力の強化を図る
- 香美市との連携(校内研修への相互参加及び授業参観)
- SC,SSW,外部講師,外部機関専門家による教員に対する指導助言
- 生徒理解等の校内研修実施(8/19 講師未定)
- 一人一台タブレットPCの活用(Google Workspace for Education)
- 臨時休業中のリモート授業実施(5/6・7)

取組③ 保護者から信頼される学びのコミュニティづくり

- 保護者シェア会(年間7回実施予定)
- 開かれた学校づくり推進委員会(年間1回実施予定)
- オンライン参観日(年間2回実施予定)
- 公開授業週間(年間2回実施予定 6/29~7/2,11/15~11/19)
- ななこカフェ(年間7回実施予定,6/8 講師:ひまわり乳業代表取締役坂井稔幸氏 参加者30人)
- SNS(Twitter・Facebook)による情報発信
- HPのリニューアル
- 不登校生徒の保護者との座談会(月1回開催予定)
- 学校・家庭・地域をつなぐ連絡システム「すぐる」の活用

取組① 高い志を持って学習に取り組める生徒の育成

☆生徒交流ができるプログラムづくりが進んでいる。
 ☆少人数授業や習熟度別授業の充実、ネイティブ教員やALT等の効果的な活用が英語教育の充実につながってきている。

●生徒の英語運用能力の伸長
 【令和2年度英語検定取得2級11人,準2級52人,3級32人,4級29人,中学3年次CEFR:A1(3級以上合格)90%,A2(準2級以上合格)68%,B1(2級以上合格)12%】
 →授業や休み時間、放課後カフェなどの場面を活かした日常的に英語を使う環境づくり
 →ネイティブ教員やALTの人員確保
 →生徒のチャレンジ活動(各種コンテスト等への参加)

●高校卒業後の進路研究(中高進路指導部の連携・情報共有、進路説明会への相互参加)
 →DPを活用した入試研究
 →大学入試改革と今後の「学力観」などについて中高大で研究する。

取組② 授業の質の向上を目指した授業実践

☆IB教育実践経験のある有識者からの学びの体制づくりができつつある。
 ☆中高6年間を見据えた授業づくりが進んでいる。
 ☆授業公開の風土ができている。
 ☆生徒理解について外部機関との連携ができている。(教育委員会,心の教育センター,SC等)

●日常的に授業の探究サイクルが活発になる仕組みの必要性がある。
 →探究学習の定義や概念の理解のための校内研修を計画
 →個々の教員の資質及び指導力の向上のため授業研究を計画

●生徒一人ひとりに応じた指導スキルの向上,組織的対応の仕組みが必要である。
 →専門分野の研究・基本的な指導技術の見直し
 →特別な支援の必要な生徒への対応・支援チームの構築

●MYP5(高1)の授業実践においての中高教員の連携を図る必要がある。
 →各教科の授業レベルでの研究
 →新学習指導要領にそった評価と逆向き設計による研究で交流する。(テスト,評価体験)

取組③ 保護者から信頼される学びのコミュニティづくり

☆保護者シェア会、ななこカフェ等の開催が計画的に進んでいる。(4/9 52人参加)
 ☆「すぐる」の活用がすすんでいる。

●IB教育の理解を校内外でさらに広める必要がある。
 →生徒・保護者が発信者となるような活動を仕組む。(オープンスクール,学校説明会等)
 →ホームページ及びSNSでの発信
 →メディアへの広報依頼【令和2年度メディア掲載:新聞4回,テレビ2回,FMラジオ1回,県教委日より3回,県民日より1回】

●県内施設に協力体制をつくっていく必要がある。
 →教員が出向く広報活動,生徒の活動による理解・周知(県内の大学など)
 →地域活動や塾への関わりにより協力体制を構築する。

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について	事業内容	山田高等学校（探究学習プログラム）
--------	------------------------------	------	-------------------

令和3年度 到達目標	1 「答えが容易に見いだせない問いを立て、自分なりの追究を通して答えを見出し、他者に伝える手法を学び、卒業後も自ら探究活動を進められる力を身に付けようとする知的営みができる」ための「探究学習プログラム」を確立する。 2 グローバル探究科生徒の75.0%以上が英語運用の到達目標（1年次）を達成している。 4 令和4年度入試（A日程）のグローバル探究科への志願者を倍増する。	3 グローバル探究科の教科担当全教員が日常的にタブレットを活用した授業をすることができる。
------------	--	---

P	D	C	A
令和3年度の当初計画	令和3年度の実行状況	成果（☆）、課題（●）、今後の取組（→）	

取組① グローバル探究科「探究リテラシー」・「グローバル課題探究」の進捗管理、「知の探究」シラバス及び指導計画策定
 「探究リテラシー（2単位）」：1年生
 「グローバル課題探究（2単位）」：2年生
 「知の探究（2単位）」：3年生

A 6能力評価（1年次2月、2年次12月、3年次7月実施）
 生徒による自己評価及び教員による評価
 ＊6能力：発見する力、調べる力、考える力、解決する力、表現する力、探究を楽しむ力

取組② グローバル探究科英語運用能力向上策
A CAN-DO リストに基づく評価（5月・7月・2月）
 4技能に対する4段階評価（自己評価）において、平均値3.0以上を到達目標とする。
B 姉妹校生とのウェブ連携
 米国フロリダ州ラーゴ高校
C インターナショナルデー（8月）
 ALTを複数招へいし、英語・異文化に触れる機会をもつ
D 高知工科大学外国人講師によるアドバンスト講義受講
 10月以降に予定（5日間程度）

取組③ グローバル探究科教科担当教員のICT活用能力向上策
A アンケート調査（4月・6月・12月）
 タブレットを活用した授業が日常的に行われるよう、実態把握及びタブレットを活用するうえでの課題を明らかにする。
 i タブレットを活用した授業実施の有無について
 ii タブレットの活用方法について
 iii タブレットを活用した授業頻度について
 iv タブレットを活用した授業をするための必要情報について
 v タブレットを活用した授業をするうえでの課題について
B タブレット活用研修会
 上記アンケート結果から生じた課題を改善するための研修
C 先進的な活用事例研修会（7月6日）

取組④ グローバル探究科の広報活動
A 中学校・塾訪問（5月・6月・9月以降）
 重点3校への複数回訪問
B 学校HPの充実
C 体験入学の充実（10月）
 学科の魅力について、生徒によるプレゼンテーション実施
 探究学習を盛り込んだ体験授業の実施
D メディアの活用 高知新聞、地元機関誌への取材依頼

取組① グローバル探究科「探究リテラシー」・「グローバル課題探究」の進捗管理、「知の探究」シラバス及び指導計画策定
 【探究リテラシー】 かみプロ座談会、探究計画書作成、論文作成、最終発表
 【グローバル課題探究】 SDGs プロによる講義、探究テーマ発表会、探究計画書作成、中間発表、最終発表
 【知の探究】 シラバス及び指導計画策定

A 6能力評価
 6能力について、5段階で示した「グローバル探究科ルーブリック」に基づき、1年生の2月、2年生の12月、そして3年生の7月に、生徒による自己評価と教員による評価を実施する。
 R2年1年生：発見する力（自己評価：1.4、教員評価：1.7）・調べる力（自己評価：2.1、教員評価：2.0）・考える力（自己評価：2.1、教員評価：2.1）・解決する力（自己評価：1.9、教員評価：1.9）・表現する力（自己評価：1.5、教員評価：1.6）・探究を楽しむ力（自己評価：2.1、教員評価：2.2）

取組② グローバル探究科英語運用能力向上策
A CAN-DO リストに基づく評価（5月・7月・2月）
 4技能に対する4段階評価（自己評価）結果：5月 1年：2.7 2年：2.3
B 姉妹校生（米国フロリダ州ラーゴ高校）とのウェブ連携
C インターナショナルデー（8月）
D 高知工科大学外国人講師によるアドバンスト講義受講
 10月以降に予定（5日間程度）

取組③ グローバル探究科教科担当教員のICT活用能力向上策
A アンケート調査（4月、6月、12月）
 現状把握・ニーズ把握
B タブレット活用研修会（4月・10月）
 ・4月タブレット使用方法について
 ・5月高知コア研究所と2年生全員、担当教員メーリングリスト作成
 ・10月活用研修会
C 先進的な活用事例研修会（7月6日）

取組④ グローバル探究科の広報活動
A 中学校（中高連絡会・各中学校高等学校説明会）
B 学校HPの充実（週1回更新。HP見やすさなどの改善）
C 体験入学の充実（10月）
D メディアの活用（様々な講演・生徒の発表活動等の取材依頼）

取組① グローバル探究科「探究リテラシー」・「グローバル課題探究」の進捗管理、「知の探究」シラバス及び指導計画策定
 ☆「探究リテラシー」グループでの探究テーマが決まりつつある。
 「グローバル課題探究」個人の探究テーマが決まりつつある。
 →「知の探究」シラバス及び指導計画策定
 ☆三菱みらい育成財団より心のエンジンを駆動させるプログラム助成決定
 （よってたかって山高「探究」プログラム：異なる特徴をもつ3学科が「地域」をキーワードに様々な探究活動に取り組むプログラム。）

取組② グローバル探究科英語運用能力向上策
●英語運用能力
 1年生（令和3年度入学生）

CEFR	6/1 現在	
B1以上	0%	
A	A2	39%
	A1	39%
A1未満	22%	

●英語運用能力向上策
 →
 入学時の英語基礎学力に生徒間の差があるために習熟度別講座編成を行い、それぞれの学力に応じた指導をきめ細かく行う。2年次にはクラス全体でのより高度な英文内容・授業内容に発展させることを想定した指導を行う。
 ・毎日適量の宿題を出し、進捗管理を丁寧に行う。
 ・学習内容の定着度を測るために小テストを実施し、日々の意欲向上につなげる指導を行う。
 ☆昨年度の実践が生かされている
●表中A1未満の生徒の学力向上
 2年生（令和2年度入学生）

CEFR	6/1 現在	
B1以上	6%	
A	A2	75%
	A1	19%
A1未満	0%	

 校内の他学科よりも英文が高度な教科書を採択しているため、英語力が十分でない生徒には基礎基本を意識しながらも、上位層にはさらに実力養成を目指した指導を行う。課題探究で培った力を英語学習でも最大限活用できるように、授業の中で「思考力」「判断力」「表現力」を重視した展開を心がける。
 ・個々の学力差に配慮しながら課題の進捗管理を丁寧に行う。
 ・学習内容の定着度を向上させるために小テストや確認テストを実施し、自己学力の客観的把握と学習意欲の向上につなげる指導を行う。
 ・英検や全国模試を受験させ、より高い英語力を目指して自律的に学習する習慣をつけさせる。

●表中B1以上の生徒を増やす

取組③ グローバル探究科教科担当教員のICT活用能力向上策
 ☆（4月）ICT機器の活用状況は、学校全体で95%である。（42名/44名）
●アンケート結果にて、ICTで何が出来るかを知りたい、授業者のスキル不足、使い方のイメージがしにくい等の意見がある。
 →まずは、使ってみることを推奨し、授業研究等を通し、ICT活用能力を向上させる。
B タブレット活用研修会
 ☆5月高知コア研究所と2年生全員、担当教員メーリングリストを作成したことにより、生徒と伊藤元雄さんとZOOMでつながることができた。

取組④ グローバル探究科の広報活動
 ☆中学校説明、中高連絡会などにおいて広報をすすめることができています。

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について	事業内容	高知南中学校・高等学校（グローバル教育プログラム〈探究型学習・英語学習〉）
--------	------------------------------	------	---------------------------------------

令和3年度 到達目標

① 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす授業改善及び生徒の特徴をふまえて創意工夫しながら特色ある教育活動を展開する。② 探究型学習プログラム及び英語教育プログラムを継続的に研究し、グローバル教育研究発表会において実践結果を発表する。③ 高知国際高等学校への円滑な接続を図る。

P 令和3年度の当初計画

【教育目標】 自他を認める人材の育成
 ◇目標に向かって主体的に努力できる生徒を育てる。
 ◇規律を尊重し、自分を律することができる生徒を育てる。
 ◇社会に貢献しようとする意欲を持った生徒を育てる。

【2021 校内研究主題】
 「自立した学習者を育て『主体的・対話的で深い学び』を実現させる指導の研究」

- 取組① 授業改善及び特色ある教育活動の展開**
- A 公開授業
 - B 教科会の質的充実
 - C 校内研修

- 取組② グローバル教育の研究・推進**
- A 探究型学習プログラムの研究
 - 【目標】
 - ・課題発見・解決の力の育成
 - ・思考力、判断力、表現力の育成
 - ・主体的・協働的な学びの実現
 - 【教科を横断した資質・能力の育成】

・問題発見・解決能力	・論理的・批判的思考能力
・情報活用能力	・主体性・協働性
・言語能力	・想像力・創造力

- B 英語教育プログラムの研究
 - 【研究主題】
主体的に英語で「理解する・表現する・伝え合う」生徒の育成～ルーブリックを活用した指導と評価の工夫～
 - 【研究仮説】
ルーブリックを活用した具体的なゴールイメージの共有やフィードバック、振り返りを通して、生徒が学習の見通しを立てたり、達成状況や次の学習すべきことを自覚したりすることで、学習意欲、メタ認知力が高まり、主体的に学習に取り組む態度が向上するだろう。

- <研究の視点1> ルーブリックの活用
 - ・ゴール（目標）の明確化
 - ・振り返りとフィードバック
- <研究の視点2> ルーブリックの妥当性・信頼性
 - ・指導と評価の一体化
 - ・教員間の共通理解
- C 研究成果の普及・発信

- 取組③ 高知国際高等学校への円滑な統合に向けた連携**
- A 高知国際中学校・高等学校との協働及び中学生間の交流
 - B 高知国際中学校・高等学校、高知西高等学校との協議会

D 令和3年度の取組状況

- 取組① 授業改善及び特色ある教育活動の展開**
- A 公開授業
 - 校内研究主題にもとづく公開授業の実施（1人1回）
 - 教員間の公開授業参観の実施（1人年2回以上）
 - B 教科会の質的充実
 - 教科主任会（6/2、8月、10月、2月）
 - ・6年間のグローバル教育の取組を振り返り、教育目標に基づいた教科マネジメント、及び授業づくりを推進していくことを確認。今後、それらを共有し、協議していく。
 - 教科主任会と探究型学習推進チーム会、及び英語教育推進チーム会の充実に回り、情報や課題を共有することで、教科会の質的充実に図る。
 - C 校内研修（7月、8月、11月、1月）
 - グローバル教育発表会を開催予定（11/19）
 - 外部講師による校内研修予定
 - 〔探究〕・国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官 白水始 氏（11/19）
 - ・東京大学 CoREF 高大接続研究開発センター特任教授 飯窪真也 氏（7月）
 - 〔英語〕・武蔵野大学教育学部教育学科 特任教授 江原美明 氏（7/5）
 - ・朝日大学経営学部経営学科教授 亀谷みゆき 氏（8/24、11/19）
 - Google Workspace for Education 体験型研修及び聴講型研修の実施（中学校5/24、7/5 高校6/4、7/2）

- 取組② グローバル教育の研究・推進**
- A 探究型学習プログラムの研究
 - 探究型学習推進チーム会（6/11、7月、9月、12月、2月）
 - ・実践研究（指導と評価の研究）
グローバル教育発表会にて知識構成型ジグソー法の授業やICTを活用した授業、教科横断型の授業等、協調学習の理念に基づいた授業を実施予定
 - ・探究型学習教職員アンケートを実施し、取組の維持と向上を図る。
 - B 英語教育プログラムの研究
 - 英語教育推進チーム会（教科会）
 - ・本年度の研究の方向性の共有（5/19、26）
 - ・担当者間による単元構想の共有とその充実
 - ・言語活動における具体的な目的・場面・状況の設定
 - ・生徒との目標及びルーブリックの共有とルーブリックを活用した振り返り
 - ・適切で効果的なフィードバック
 - 英語学習（指導）意識調査（7、12月、生徒・教員対象）のフィードバック
 - C 研究成果の普及・発信
 - グローバル教育発表会の開催（11/19）
 - 平成27年度から取り組んだ6年間分の研究授業事例（探究型学習プログラム）を県内に発信することを検討中（ホームページ掲載、DVDによる配布等）。

- 取組③ 高知国際高等学校への円滑な統合に向けた連携**
- A 高知国際中学校・高等学校との協働及び中学生間の交流
 - 高知国際中学校高等学校・高知南中学校高等学校交流委員会の開催（4/26、6/14、8/5、10/11、12/20、2/7）
 - 高知国際高等学校より高校説明会（6/17）
 - 高知国際高等学校より保護者への高校説明会（6/25）
 - 高知国際高等学校オープン Hi スクール（7/15）
 - 高知国際中学校生との交流事業（7/13、11/8、11/9）
 - B 高知国際中学校・高等学校、高知西高等学校との協議会の開催

C **A** 成果（☆）、課題（●）、今後の取組（→）

- 取組① 授業改善及び特色ある教育活動の展開**
- A 公開授業
 - ☆ジグソー法、教科横断型及びICTを活用した授業に積極的に取り組む姿勢が見られた。
 - 教科会の充実を通して教員間の授業改善意識をより高めていく必要がある。
 - 授業の中で、気付く、考える、表現する場面の充実に意識する。
 - B 教科会の質的充実
 - C 校内研修
 - ☆外部講師にライブ配信研修を依頼し、校内研修の充実ができた。
 - 学校全体で、取組の共有の場（教科主任会やチーム会）を設定できなかった。
 - 年間のスケジュール管理と教員への周知を行い、場の設定を行う。

- 取組② グローバル教育の研究・推進**
- A 探究型学習プログラムの研究
 - ☆各教員が授業で生徒の力の育成を図り、学習のねらいを明示して授業を行っている。また、教科を横断した授業づくりへの意識の向上が見られた。（探究型学習教職員アンケート結果より）
 - 実践例や課題等を共有できる機会を十分に設定できなかった。
 - 教科会を中心として、教科主任会とチーム会を充実させることで、学校全体の授業づくりの取組や取組意識の向上を図る。
 - B 英語教育プログラムの研究
 - ☆CAN-DO リスト、パフォーマンス課題、ルーブリックを共有し、生徒に学習の見通しをもたせることは一定できている。具体的な言語活動の設定とその指導過程におけるルーブリックを活用したフィードバック、振り返りの実施は不十分である。
 - 担当者間の共通理解と指導と評価の一体化
 - 担当者間や教科会で単元構想や指導過程について協議し、ルーブリックの信頼性・妥当性を図るとともにさらなる指導と評価の一体化を図る。
 - 研究仮説の検証
 - 英語教育推進チームでは、ルーブリックを活用したゴール提示や振り返りの充実を図ることで、生徒の学習意欲やメタ認知力の向上、主体的に学習に取り組む態度の向上が図られたかを検証する。
 - C 研究成果の普及・推進
 - ☆11月の校内研修の実践事例をパンフレットにまとめ、県内の各中学校、及び各高等学校に配布し、取組の普及ができた。
 - 1年間の実践事例しか配布できなかったため、今までの取組のまとめ方を検討していく。

- 取組③ 高知国際高等学校への円滑な統合に向けた連携**
- ☆高知国際中学校と高知南中学校との生徒間交流が進んでいる。
 - 高知国際高等学校の教育活動についての周知をより一層進めていく必要がある。
 - 高知国際高等学校への円滑な統合に向けて、協議を深めていく。

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について	事業内容	高知西高等学校（グローバル教育の推進と英語運用能力の向上）
--------	------------------------------	------	-------------------------------

令和3年度 到達目標	① グローバル教育の推進・英語運用能力の向上をととして、志をもって自らの進路を選択できる生徒を育成する。 ② 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）における「事業特例校」指定を生かし、残り2年間の探究学習を充実させる。
------------	--

P 令和3年度の当初計画

D 令和3年度の実績状況

C **A** 成果（☆）、課題（●）、今後の取組（→）

取組① 探究学習（G探）を通じて自ら考え行動できる人間の育成

- A グローバル探究Ⅱ（2年生）
- プロジェクト（テーマ設定・計画実践・論文作成・発表）を通じて探究の方法を活用する力を身に付ける。
 - 自己管理スキルを身に付けるため、フィールドノート（探究の記録）を活用し、レポート4回（プロジェクトテーマ提案書含む）の作成
- B グローバル探究Ⅲ（3年生）
- 生徒の進路意識を高め、探究活動を通じて将来の進路を明確にするためのリサーチペーパーを作成
 - 総合型選抜（AO）・学校推薦型選抜（推薦Ⅰ）の合格者 **50名以上**

【参考】総合型選抜（AO）・学校推薦型選抜（推薦Ⅰ）結果

受験年度	H28	H29	H30	R1	R2
合格/受験 (合格率)	32 / 54 (59.3%)	39 / 70 (55.7%)	38 / 67 (56.7%)	35 / 60 (58.3%)	41 / 64 (64.1%)

- C 探究活動に関する教科間連携
- 英語課題探究（普通科生徒選択）において、G探Ⅲや課題論文（国語、学校設定科目）と連携し、国際シンポジウムで発表

学校評価項目 / 実施年度	H29	H30	R1	R2
自主的な社会貢献活動及び自己を高める取組	41.3%	48.0%	45.6%	41.5%
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいか？	39.7%	42.9%	42.6%	40.1%
将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいか？	42.9%	48.6%	49.2%	47.8%

（指標）事業取組における生徒の振り返りで肯定的意見 50%以上

取組② 英語運用能力の向上

- A. 課題研究
- G探Ⅲ、英語表現、GEなど授業における英語の絶対量の増加
 - （国際シホ）聴衆がプレゼンテーションの内容を理解し参加できる工夫
- B. 課題研究外
- 読解や自然な英語に触れるための副教材活用（多読）、様々なジャンルの英語を聴くこと（多聴）、要約・論理的英作文を書く力を養うこと（多書）、インタビューやディベート、ディスカッションを通じて論理的発話を鍛えること（多話）を通じた英語4技能の伸長
- C. 英語外部試験の活用（AやBの取組を通じた英語力の年間目標値）

学年	学科	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2
2年	普通科	80%以上	10%以上	
	英語科		50%以上	
3年	普通科		20%以上	
	英語科		100%	10%

取組③ 高知国際高等学校への探究学習の継承及び実践

- A 普通科への総合的な探究の時間（G探の取組）の精選と継承
- 本校がこれまで教育課程の特例で、1年生週2単位(情報の時間1単位含む)で行っていたG探Ⅰを、高知国際高等学校では週1単位(総合的な探究の時間)で実施するため、内容の精選が必要

取組④ 高知国際高等学校への円滑な統合に向けた連携

- A 高知国際中学校・高等学校、高知南高等学校との協議会

取組① 探究学習（G探）を通じて自ら考え行動できる人間の育成

- A グローバル探究Ⅱ（SDGs：グローバル問題へのアプローチ）
- グループで調査、計画、行動、振り返りを通してプロジェクトの実施
 - レポート1回目（探究のテーマ設定に関する提案書作成）終了（5/19提出）
 - 外部学習支援システムClassiによる探究に関するアンケート配信・整理（振り返り）
 - 海外の高校生（上海・韓国・台湾等）とのZoomによる交流（後期）
 - 探究活動成果発表会 →学年代表グループによる探究成果ステージ発表（R4.3.12）

- B グローバル探究Ⅲ（論文作成）
- 個人で関心のあるテーマを設定しリサーチペーパー（論文）を作成（7/2提出）
 - 国際シンポジウム（7/15）→グループ発表（4グループ）及び県内ALT等との地域創生に関するパネルディスカッション（テーマ）Welcome to Corona World～労働・文化・環境が受けた影響～
 - 進路実現に向けた講演等の実施（4回程度）

- C 探究活動に関する教科間連携（国際シンポジウムに向けて）
- 国際シンポジウムに向けてテーマ（幸福感・公衆衛生）の発表に向けた準備（英語での原稿作成、発表練習、プレゼンテーション作成など）
 - 国語科による生徒がリサーチペーパーを作るための文章作成の方法や言葉の使い方を学び、進路部からは各自の進路に直結したテーマ設定の仕方の指導を行う。

取組② 英語運用能力の向上

- A. 課題研究（ALTとのTTまたは外国人講師による授業）
- GEⅠは教育や文化を土台に様々なトピックについて学習し、知識を深め、PEⅡではより効果的なプレゼンテーションについて理論と実技演習（2年英語科）
 - 国際シンポジウムでの運営（司会、英語ディスカッションでの質疑応答に関わる日本語要約、全員参加型の発表形態の研究など）（3年、英語科3年全員）
 - GEⅡやPEⅢのディベートやエッセイライティング（英語科3年全員）や英語課題探究のプレゼンテーション（3年普通科選択者）の取組の充実につなげている。

- B. 課題研究外（英語の4技能の育成）
- Reading：自然な英語表現に慣れながら未知語があっても類推しながら読み進める力を養成（普通科：速読教材 英語科：テーマに関する英文(Webより引用)）
 - Listening：教科書や補助教材を使った、ディクテーションやサマリー活動（両科）
 - Writing：100語程度のみとまりのあるパッセージを書く活動（英語科）
Unit毎のライティング活動（普通科）スピードライティングの実施(両科)
 - Speaking：インタビューテスト・スピーチ、ディベート、プレゼンテーションの実施

C. 英語外部試験の活用*（ ）内は令和2年度結果*各学年GTEC受験（英検は任意受験）昨年度の結果は両方を含んだもの

学年	学科	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2
1年	普通科	50%以上 (66%)		
	英語科	100% (97.4%)	20%以上 (20.5%)	
2年	普通科	80%以上 (84.7%)	10%以上 (9.7%)	
	英語科		50%以上 (60%)	
3年	普通科		20%以上 (14%)	
	英語科		100% (89.4%)	10% (10%)

取組③ 高知国際高等学校への探究学習の継承及び実践

- A 普通科への総合的な探究の時間（G探の取組）の精選と継承
- 名称をグローバルシチズンシッププログラムⅠ（GプロⅠ）として、西高校の行っていたグローバル探究Ⅰの地域協働学習を高知国際高等学校普通科へ継承している。コロナ禍ではあるが、県内リサーチを実施して、年度末の探究成果発表会を行う。（R4.3.12）

取組④ 高知国際高等学校への円滑な統合に向けた連携

- A 高知国際中学校・高等学校、高知南高等学校との協議会の開催

取組① 探究学習（G探）を通じて自ら考え行動できる人間の育成

- A ☆昨年度コロナ禍で制約も多かったが、県内リサーチも体験し、地域活性化に関するお互いの探究発表に刺激を受けた。本年度は、同じ興味関心のあるテーマでのグループ探究活動にさらに意欲的に取り組んでいる。
- 希望進路につなげるグループ探究のため、テーマの絞り込みに苦労している。
 - 最終の学術ポスターセッションのゴールイメージを持たせて取り組ませる。

- B ☆自身の進路に関係する個人探究となっており、進路目標とする自身の目指す方向性や進路実現に向かう実行力につながっている。
- 6月25日提出締切、ホーム担任・副担任のチェックの後、7月2日までに修正加筆し論文完成という流れの中、授業だけではカバーできず、生徒・教員ともかなり授業時間外の時間が論文作成には必要となっている。
 - 総合型選抜・学校推薦型選抜の結果につながっており、少しでも効率よく完成につながるよう検証し、ノウハウを継承する。

- C ☆テーマ設定についてはグループによって遅速があったが、課題に対して主体的に生徒は調査や論文作成などに取り組んでいる。
- 内容、構成等をまず日本語で作成（5月）し、英語原稿作成(6月～)にかかる。
 - 本番向けには外国人講師等からの指導を受けながら、効率的に作業を行う。

取組② 英語運用能力の向上

- A 課題研究（取組①のCと共通）
- ☆昨年度はコロナ禍による国際シンポジウムの中止に伴い、その分、時間をかけて授業活動（ディベート・プレゼンテーション等）を行った。生徒の主体的な取組で本番に向けて質が上がっている。
 - 発表者・聴衆がトピックの内容を理解し、思考を深めることに時間が必要である。
 - 外国人講師からの指導も含め、トピックの理解・原稿の事前準備をしっかりと行う。

- B 課題研究外
- ☆外部試験では特にライティングやスピーキングでの結果が向上になっており、英語科でのこれまでの授業の取組を普通科にも取り入れている部分もあり、全体の生徒の英語力向上に結びついているのではないかと。
 - 書く、話すことの積極性は育っており、今後は文法や語彙を含めた英文の構成や正確さにも力を入れていく必要がある。また、結果の上昇の反面、成績の2極化の対応も必要になっている。
 - 活動をやりっぱなしにすることなく、その都度検証をして生徒の力を見極めながら、生徒のレベルに応じた課題や指導の方法を研究する。

- C 英語外部試験の活用
- ☆例年目標は達成しており、生徒の英語学習のモチベーション維持や教員の指導の検証のために必要。特にこれからは普通科の生徒のCEFR B1以上の達成率を上げる。
 - 外部試験の結果と昨年度初めて行われた大学入試共通テストの結果の相関関係については必ずしも一致しておらず、読解は複数の情報源から概要・要点を把握する設問、リスニングは目的に応じた思考力、判断力が問われる設問など、今後はその内容も踏まえた授業改善の必要がある。
 - 外部試験だけで完結するのではなく、授業を通じて総合的に4技能の育成を目指す指導を研究・実践する。

取組③ 高知国際高等学校への探究学習の継承及び実践

- A 普通科への総合的な探究の時間（G探の取組）の精選と継承
- ☆高知西（高知国際）での探究活動の取組に対する生徒のモチベーションは高く、これらの良い取組を高知国際高等学校の1年生にも継承している。
 - 教育課程の特例はないため、高知西高校の昨年度までの取組を精選（取組の大枠を決める）する必要があり、振り返りと検証をしっかりと行い、次年度につなげる。
 - 講師の講演を通じて探究テーマの具体化につなげ、8月の県内リサーチにつなげる。

取組④ 高知国際高等学校への円滑な統合に向けた連携

- 高知国際高等学校への円滑な統合に向けて、継続的に協議を行う。